

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社エーアステス		
事業所名	グループホームMyほ〜む童里夢		
所在地	札幌市西区西野2条1丁目2番1号		
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果市町村受理日	令和5年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0170400865-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとは、どのようにして過ごして頂く事で、入居者様の充実した生活となられるのか、その点に注目しながら、行事やレクリエーションを行っております。中々コロナが収まらない中、外出もままならない為、施設内にて季節感を出す事で、春夏秋冬を感じて頂ける様に掲示物などは、コミュニケーションを図りながら入居者様と一緒に作成しております。また24時間医療対応型介護施設と併設されている為、入居者様の体調の変化時も直ぐに看護へ相談が出来るなどの特徴も兼ね備えております。居室内は、その方らしい馴染みのある物を飾る事で、この部屋は自分の家なのだと思っ頂ける様に工夫を行っております。ご入居様を中心に、ご家族様、医療、介護間の連携を図りながらMyほ〜む童里夢にて笑顔でお過ごし頂ける様にケアを行って参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Myほ〜む童里夢は、有料老人ホームに併設して開設19年目を迎えている。バス停やスーパー、飲食店等が立ち並ぶ住宅街にあり、桜並木がある発寒川遊歩道に隣接し、自然や地域と密着した生活が継続できる環境にある。建物内は明るく、季節飾りは利用者で作成し、1月は雪富士の絵に願いを込め、「家族の健康を祈る」など利用者の新年の思いを添えている。理念に基づいたケアサービスは、本人主体に軸足を置き、利用者の心情的引き出しや現状の把握に努めている。持てる力の促しとさりげない支援のバランスが優れており、ゆったりとした時間と、体操や趣味活動など動きのある時間を意識的に設け、心身の安楽と活性化につなげている。職員は有資格者を揃え、率直な討議や現場に即応した研修により、柔軟で適切なサービスを提供している。また、訪問診療を整え、常勤看護師の配置や併設施設の看護師にも随時相談可能な支援体制である。長期化したコロナ禍対応を踏まえ、ホームページやブログ開設でさらなる情報発信を進めており、利用者のみならず家族の安心にも寄り添った支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員理念の把握を行うと共に統一した介護に努めております。	事業所に関わる人すべてにとって、明るい笑顔と活気あふれる生活となるよう思いを込めた理念を掲げている。職員は日常業務の中で理念を共有し、その姿勢に沿ったサービスの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為、以前行っていた新年会などへの参加は出来ない状況ですが、定期的にご挨拶には伺っております。	地域交流は難しい状況だが、管理者交代の際や運営推進会議事録の配布時には、協力を得ている町内会役員を訪問し、相互に情報を交換している。コロナ禍収束後には、地域の新年会で親睦を図る予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症状をお持ちの方の理解、支援の方法など、運営推進会議等の際に、説明を行いながら理解とご協力を頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告、サービス状況、取り組みなどを報告し、話し合いを行いながらサービスの向上に努めております。	現在、2カ月毎に書面会議として実施している。利用者の現状や活動状況、感染症予防対策や職員研修等を議事録にまとめ、地域代表や包括支援センター、全利用者家族に配布し、事業所の運営状況を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	本来は2カ月に1度西区の管理者会議に参加し、区や市の連携を図っておりますが、コロナ禍で文章での連携等になっております。	行政との対応は、管理者やケアマネジャーが行い、定期報告や諸種情報交換のほか、運営上の不明点などを相談し、助言や指導を受けている。利用者の生活に直結する介護保険認定更新や保護費関係でも、随時協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しましては、2カ月に1度の内部研修を行い、対象となる具体的な行為については、周知しており、また、身体拘束禁止を徹底しております。	身体拘束適正化指針を作成している。2カ月毎に委員会と勉強会を併せて行うことで、全職員が内容の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また虐待防止の徹底では、外部講師による研修会を設け、人格尊重の意識化につなげている。センサーマット使用の場合は、介護計画でその必要性を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法につきましては2カ月に1度の研修を行い、全職員が理解出来る様に学んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しましては、社内研修を通して理解しております。個々の必要性を話し合い活用できるように、それぞれの権利を理解して参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容、重要事項などについて十分な説明を行い、又、解約時にも不安や疑問点に関して十分な説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、何時でも入居者様、ご家族様が意見、要望を、こちら側に伝えられる様に配置しております。それらのご意見を反映出来る様に心掛けております。	家族の来訪が多く、感染状況を見極め、適宜面会対応を行っている。電話や来訪時には、意向や要望の聞き取りに努め、利用者の様子や状態を報告している。面会制限が長期に渡っており、ブログ作成など情報発信の取り組みを進めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より職員の皆様の意見、提案は、カンファレンスやミーティングを開き皆で話し合い業務を進めております。	日常の業務や会議の中では、率直な意見表出や討議が定着しており、業務改善やより良いケアの提案やその実践に反映している。内部や法人内研修を企画し、業務へのモチベーションを持てるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間、労働内容などに関しましては都度、個々に聞き取り、意見などがあつた際には皆で話し合い、業務改善などを行い、働きやすい職場作りを努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部研修には中々参加できかねておりますが、内部研修は毎月行っており職員のスキルアップに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍が続いている為、相互訪問などは出来ない状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、その方の情報を把握し、ご入居後には側に寄り添いコミュニケーションを図ることで安心して過ごして頂けるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居様の様子などを、ご家族様にお伝えする事でご家族様との信頼関係も築ける様に努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思いを十分に受け止めケアマネジャー他、担当者などとも支援内容を十分に検討しながら行っております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームはご入居者様の家であり、私達は毎日と共に過ごしております。ご入居様それぞれの立場にたち支え合えられる関係を築いて参ります。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは話をする機会も多く取れております。又、ご本人様のご家族様に対する思いや、ご家族様のご本人様に対する思いを十分に受けとめ良好な関係が図れるように努めております。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会には行えていない状況ですが、その間、電話などを通じて会話ができる状況は整えております。	コロナ禍による面会制限はあるが、家族や親しい友人とは窓越しで電話を使って対話できるよう配慮している。訪問美容師や往診の協力医師とも顔なじみであり、利用者にとって安心できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中や就寝前のレクリエーションを通しご入居者様皆で楽しんで頂ける場を設けております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後の相談、支援も行っており、終了後も良好な関係を保たれております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや、希望に関しましては、都度、耳を傾け、職員間で周知し、希望、意向に添えるように努めております。	一人ひとりの生活歴や個性、状態の理解を深めており、短い言葉で返答しやすい質問をしたり、選択しやすい声掛け、うなずきや表情からも察し、本人に合わせ意向の把握方法を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご入居者様の生活環境を聞き取り十分にアセスメントを行いフェースシートを元に馴染みのある生活が、出来る様に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居様の体調を把握し、その日の体調に合った過ごし方が出来るように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、ご本人様、ご家族様の意向を含めたカンファレンスを行うことで、その方らしい介護計画の作成が出来ます。	定期、または状態変化が生じた場合に介護計画を見直している。計画の実践は日々の記録や毎月のモニタリングで確認し、カンファレンスで利用者・家族、関係者全員の意見等を協議している。新たな計画は現状に即し、健康面のニーズや、生活習慣や好きな事での力の発揮を促し、本人と共有できる支援計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、ご入居者様の身体状況も変化が見られ、都度記録に落とし又、職員間での話し合いの結果もノートに記する事で情報の共有が出来ており介護計画の見直しにも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネジャー、医療、介護の連携を図ることで新たなニーズにも対応させて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難(防災)訓練にはご入居者様も参加させて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は看護、介護で毎回行っております。又、隔週の訪問診療の対応もあり体調管理の把握に努めております。	受診支援は、利用者、家族の意向に沿い、現在は全利用者が訪問診療を利用している。脳神経外科や整形など専門科受診は、看護師や職員が付き添い、家族が同行する場合もある。常勤看護職員を配置し、適切な医療受診への体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝、夕の申し送りなどを利用し看護、介護内で情報共有が出来ております。受診時には、適切な情報が伝えられる様、連携を図っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、ご本人様、ご家族様と相談しながら意見を聞き対応させて頂いております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、早い段階で、ご家族様の意向を確認し、往診医、看護職員で話し合いを行い、職員同士ケアの方針を共有しております。	利用契約時に、重度化や終末期のあり方を説明し、同意を得ている。重篤の段階では主治医の見解のもと再度意向を確認し、医師を交えて話し合いの場を設けている。医療連携と看護、介護の職員間で支援方針を共有し、個別の意向に添った終末期を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策のマニュアルを作成し、応急手当などは、看護師、又は消防施設の訓練などで行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内では定期的に、日中、夜間に分け避難訓練を行っております。又、全職員が避難時の誘導など対処の仕方を理解できるように指導しております。	今年度は6月と11月に昼・夜を想定した自主避難訓練を、併設施設と合同で実施している。非常災害対策計画や避難確保計画を策定し、水や食料、各種非常用備品を準備している。	地震や水害等自然災害についても実践的または机上訓練を実施し、非常事態に適切に対応できるよう全職員の共有となることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生における先輩方である事を敬いながら、声掛けを行っております。また、排泄時、入浴時などは自尊心を傷つけないように対応させて頂いております。	年間研修計画に接遇やプライバシー確保を設定し、職員意識の統一を図っている。日々の関わりでは、職員の落ち着いた対応と明るく穏やかな声掛けにより、利用者の安定した生活環境の構築に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見を聞き取り、その中で日常生活が出来る様に支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしながら、趣味や楽しみを見つけて頂ける様に支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり洋服を選ぶときには一緒に言うなどと工夫を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居様様の体調などを見ながら、無理なくご本人に行っていただけの一緒に行っております。	重度化傾向の利用者が多く、特に嚥下状態に配慮し食形態や自助具の工夫、食事姿勢を整え、個々の自立を支え美味しく食事ができるようにしている。行事や誕生会では赤飯やちらし寿司、ケーキなどで楽しみや変化を取り入れ、お節料理で賑やかに新年を迎えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は都度、記録に残し、自身で食事を摂る事が困難な方は介助を行い、栄養、水分の確保を図っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に見守り仕上げ磨き介助にて口腔内の清潔保持に努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し落とし、排泄パターンを知ることによってトイレ誘導を行っております。また、各自の排泄状態に合わせてトイレ誘導を行っております。	排泄パターンの把握により、個別の時間間隔できりげなく声掛け、トイレでの自然な排泄を支援している。尿量の変化に応じ適切な衛生用品を使用している。ベッドでの介助もあるが、羞恥心の配慮で心の負担感も少なくし、個々の自立を見極め快適に過ごせるように介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に行うラジオ体操、訪看による歩行練習、また個々に処方を受けた便秘薬などにて排便コントロールを行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様入浴は楽しみにされておられますが、時には体調不良等見られた時にはご本人様と相談を行いながら時間の変更などを行っております。	週2回入浴日は決めているが、利用者にとっては適度な生活のリズムとなっている。シャワー浴などは状態や希望によって対応し、洗髪や洗身は本人に力加減を確認するなど、気持ち良く入浴できる事を大切にしている。会話や歌で入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って横になられたり、また体調をみて休息をとって頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回出た薬剤情報を何時でも見られる状態に置き、薬が変わる時には確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の負担にならないような役割を行って頂いております。また、おやつなど、皆様の嚥下状態に合わせ、また、楽しみにして頂ける様に配慮行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、外出は控えておりますが、暖かい季節には少人数にて散歩など行えたらと思っております。	コロナ禍により外出は自粛しており、買い物の希望は職員が代行している。屋内行事やレク活動に力を入れているが、春には隣接の河川遊歩道の桜見物やベランダでプランターの花植えなど、外気に触れ気分転換できる機会作りを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保持につきましては、御本人、ご家族様と相談の上、支援させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様自ら電話が出来る様に対応は出来ており、支援行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて壁掛けなどを入居者様と一緒に作成し飾っております。また、昔懐かしい玩具、和を感じられる手作りのパッチワークなどで心地よく過ごされる様に工夫を行っております。	明るい日差しが入るリビングに、日中は利用者が集まり、それぞれの居場所でゆったりと過ごしている。パタカラ体操のポスターやCD、レク用品が目につきやすく配置され、活動意欲に働きかけている。利用者で作成した季節飾りは、和やかな雰囲気作りに一役買っている。温・湿度、換気等にも十分配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに腰を掛けてテレビを見られたり、食堂席にて他入居者様と共に編み物をされて過ごされるなど、場所の工夫を行っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人様が持ち寄られた写真やポストカード、家具など、馴染みのある空間となるように工夫を行っております。	自室が分かりやすいよう手作りの表札や季節飾りが掛けられている。馴染みのあるタンスや生活用品、大切にしてきた縫いぐるみや家族写真などが持ち込まれている。状態の変化では動線の確保を優先し、家族とも相談して家具等の整理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には手作りの表札をかけており、また、トイレ、浴室などには分かりやすいよう手作りの案内板を掛けております。車椅子での移動、手引きでの歩行も安全に行えるように動線の確保は行っております。		